

花脊モニタリング 11 月報告

～久々の別所「hanare」付近で～

日時：2022 年 11 月 15 日(火) 10 時～12 時

場所：花背別所「hanare」裏山付近

天候：曇り

参加者：7 名

今年度最後となった花脊のモニタリング、久々に長い間続けていた別所のモニタリング地域に入りました。三つのルート
の林道ルートです。

この時期は花はほとんどなく、黄紅葉やきのこ、実などが中心ですが「hanare」出口あたりではトウバナの花が見られました。サルトリイバラのそっくりさんサルマメが、結構の株数で健在でした。

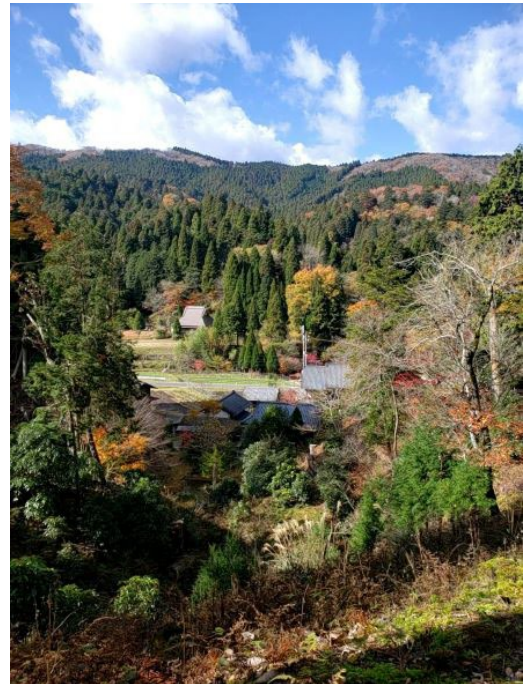
道に出て山に向かうところでは上にある木から実が落ちていました。小さなヤマナシの実です。アカモノ（京都府絶滅危惧種）を確認したところ、以前より少し増えているようでした。ツタウルシが紅く紅葉し、ヤブコウジは赤い実をつけお正月飾りなりそうです。

K さんが裂片の模様がまだきれいな状態のツチグリを見つけてくれました。ユズリハはたわわに黒紫色の実をつけ、「ユズリハってこんな実をつけるんですね」という声も聞こえてきました。そばのミツマタには、すでに春の準備が完了して、沢山のつぼみがありました。

この後ウワミズザクラ、ヤマザクラ、ウリハダカエデ、コハウチワカエデの美しい紅葉を愛で、踏みしめて進みます。それぞれに紅葉と言っても穏やかだったり、鮮やかだったり、華やかだったり木を持ち味が見られ、おもしろいものです。



アオハダを手に取り観察



観察路から見た花脊別所の風景



観察路を下る

途中斜面の上を見上げると鮮やかな黄色の葉が見えて、ルートはずれて木をめざして駆け上がりました。アワブキでした。その横に赤い実をつけた黄葉のアオハダもありました。先を見ると透けたようなレモンイエロー、コシアブラの葉です。

褐葉したイヌブナ、その下には沢山の実が落ちていましたが、不稔の実が多いようでした。「これ食べられるの？」と誰かが言い、「美味しいですよ、山の人は山ソバと言って食べています」「なるほど三角のそばの実の形に似ているわ」と食に関わると話がはずむ私たちでした。歩いている内に斜面に階段がつくられており、「道になっている」と言って、どこまで行けるのか行ってみようと言うことになりました。(モニタリングはどうなるの？と陰の声)、

続いて現れたオオカメノキ、ウラジロガシ、キッコウハグマ(花)、アスナロ、大きなマルバアオダモの木を見たあたりで道は急なくだりにさしかかり、下には何と「hanare」の庭がありました。ぐるっと大きくまわって「hanare」に戻るように作られた散策路だったのです。少し整備するといい観察路になるかもしれません。思わぬ発見で、観察ルートを作ろうという夢が現実味を帯びてきました。(清)



コシアブラの葉が透けるような黄葉



ツチグリ



調査する会員



地衣類ハナゴケ sp.



サルマメの実



鮮やかに高揚したオオモミジ



見上げるようなイヌブナ